

News Release



本資料は 2012 年 4 月 27 日に BASF 本社(ドイツ)で発表されたプレスリリースの和訳です。

BASF、2012 年第 1 四半期の業績を発表 順調に新年度をスタート

2012 年 5 月 8 日

- **売上高は前年同期比 6%増**
- **特別項目控除前 EBIT は前年同期比 7%減**
- **農業関連製品部門と石油・ガス部門が大きく貢献**
- **2012 年通年は増収増益の見通し**

お問い合わせ：
BASF ジャパン株式会社
コーポレート・コミュニケーションズ本部
麦谷英理子
TEL: 03-3796-4865
FAX: 03-3796-4111
eriko.mugitani@basf.com

BASF(本社:ドイツ ルートヴィッヒスハーフェン)は 2012 年度、好調なスタートを切りました。第 1 四半期の売上高は非常に好調だった前年同期を上回り、6%増の 206 億ユーロとなりました。特別項目控除前 EBIT は予想通り減少し、前年同期を下回る 25 億ユーロ(7%減)でした。

ドイツ マンハイムで行われた 2012 年第 1 四半期決算説明会で、BASF 取締役会会長の Dr. クルト・ボックは、「原材料の値上がりをあらゆる事業分野で製品価格に転嫁することがかなわず、このため利益率が圧迫されました。しかし、石油・ガス部門と農業関連製品部門は利益が大幅に増加しました」と述べています。

EBIT は前年同期比 22%増の 31 億ユーロでした。EBIT に含まれる特別項目は主に肥料事業の売却益 6 億 4,500 万ユーロです。EBITDA は 5 億 2,500 万ユーロ増加し、39 億ユーロでした。

BASF ジャパン株式会社
住所: 〒106-6121
東京都港区六本木 6-10-1
六本木ヒルズ森タワー21 階
TEL: 03-3796-5111
FAX: 03-3796-4111
<http://www.japan.basf.com>

金融収支は前年同期を 9 億 300 万ユーロ下回り、マイナス 7,300 万ユーロでした。前年度の金融収支は K+S Aktiengesellschaft の持分売却による 8 億 8,700 万ユーロの特別収入が含まれていました。

税金等調整前利益は前年同期に比べ 3 億 3,300 万ユーロ減少し、30 億ユーロとなりました。税率は 39.6%で、前年同期に比べ、大幅に上昇しました。この税率上昇は、前年度の K+S Aktiengesellschaft の売却益がほぼ非課税扱いだったこと、ならびに今年度は石油・ガス部門の収益への貢献度が拡大したことによるものです。

純利益は 6 億 8,700 万ユーロ減の 17 億ユーロでした。第 1 四半期の 1 株あたり利益は前年同期の 2.62 ユーロに対して 1.88 ユーロでした。特別項目と無形固定資産の償却を調整した 1 株あたり利益は 1.57 ユーロでした。(2011 年第 1 四半期は 1.94 ユーロ)

事業活動から得られた 16 億ユーロ弱のキャッシュフローを活用して BASF は純負債を今年度期初の時点から 15 億ユーロ削減し、94 億ユーロにまで圧縮することができました。

2012 年第 1 四半期末の BASF の株価は 65.59 ユーロと、2011 年 12 月末の終値から 21.7%上昇しました。これに伴い、BASF の株価の伸びはドイツの株式指数「DAX 30」、欧州の指数「DJ EURO STOXX 50」、およびグローバルな業界指数の「DJ Chemicals」と「MSCI World Chemicals」をいずれも上回りました。

取締役会と監査役会は 2012 年第 1 四半期年次株主総会において、2011 年度の配当額を 1 株あたり 2.50 ユーロとする提案を行いました。ボックは、「当社はこのように、毎年配当を増額するか、少なくとも前年の水準を保つという積極的な配当方針を維持しています」と述べています。

BASF ジャパン株式会社
住所: 〒106-6121
東京都港区六本木 6-10-1
六本木ヒルズ森タワー21 階
TEL: 03-3796-5111
FAX: 03-3796-4111
<http://www.japan.basf.com>

ボックは 15 年にわたって勤め、この度取締役会から退任する Dr. シュテファン・マルツィノフスキーに感謝の意を伝えました。マルツィノフスキーは中央研究室の化学者として 33 年前に BASF に加わり、広報部門責任者やブラジルでの 3 年間の勤務を含めてさまざまな職務を担ってきました。ボックはまた株主総会終了と共に取締役会に加わるウェイン・T・スミスに歓迎の辞を述べました。

2012 年通年の見通し

2011 年第 4 四半期は低調だったものの、BASF の事業は 2012 年第 1 四半期に回復に転じました。しかしながら高騰した原材料費のうち製品価格に転嫁できる部分は一部に留まりました。BASF は 2012 年を通じて世界経済の成長が続くと予想していますが、金融市場の不確かさがこの成長見通しの阻害要因となっています。化学産業への好材料は主に新興市場から生じています。2012 年のグローバル経済に対する BASF の見通しは従来と変わらず、次の通りです。

- GDP 成長率: 2.7%
- 工業生産高成長率: 4.1%
- 化学品生産高成長率: 4.1%
- ユーロ/ドルの平均為替レート: 1 ユーロ = 1.30 ドル
- 年間平均原油価格: 1 バレル = 110 ドル

買収と事業売却の影響を除外して、BASF は売上数量の拡大を目指しています。ボックは、「今年度の目標は、2011 年に達成した過去最高の売上と営業利益を超えることです。BASF の見通しはリビアでの原油生産再開と化学品部門での販売量拡大によって支えられています。2012 年上半期は、前年同期の業績が極めて優れたレベルに達していたため、それに匹敵できる業績達成の見込みは高くありません」と述べています。しかし下半期には前年同期を上回る売上と利益を達成できると予想しています。

BASF ジャパン株式会社
住所: 〒106-6121
東京都港区六本木 6-10-1
六本木ヒルズ森タワー 21 階
TEL: 03-3796-5111
FAX: 03-3796-4111
<http://www.japan.basf.com>

BASF は 2012 年にも資本コストを大きく上回る利益率の獲得を目指しています。

ほぼすべての部門で売上高を拡大

「化学品部門」では、主に為替変動の好影響と STYROLUTION(スタイロリューション)グループ各社への売上により増収を達成しました。販売量は 2011 年第 3 四半期に実施したナフサクラッカー製品のサプライチェーン最適化のため減少しました。同製品の影響要因を除いた同一基準の比較では販売量は微増でした。原材料費の高騰により利益率は低下し、その結果、利益額は前年同期の非常に高い水準を大きく下回りました。

「プラスチック部門」の売上高は前年同期をわずかに下回りました。販売価格の上昇と為替変動が売上高に貢献しましたが、販売量は前年同期を下回りました。利益率の低下により利益額は大きく減少しました。さらにルイジアナ州ガイスマーの MDI と TDI プラントの定期メンテナンスに伴いポリウレタン部門の利益が縮小しました。

「高性能製品部門」の売上高は、非常に好調だった前年同期と同水準を確保しました。需要はわずかに減少しましたが、販売量減少は価格の上昇と為替変動の好影響により相殺できました。原材料費の急激な高騰が利益率を圧迫し、その結果として利益額は低下しました。

「機能性化学品部門」では、自動車ならびに建設産業での需要拡大により売上高は微増しました。貴金属取引の売上高への貢献は縮小しました。製品ポートフォリオの改善に加え、為替変動も売上高に好影響を及ぼしました。利益額は特に触媒部門の貢献により拡大しました。

「農業関連製品部門」は非常に好調な 2012 年のスタートを切りました。売上高増加には販売量拡大と価格上昇が特に貢献しました。為替変動も売

BASF ジャパン株式会社
住所: 〒106-6121
東京都港区六本木 6-10-1
六本木ヒルズ森タワー21 階
TEL: 03-3796-5111
FAX: 03-3796-4111
<http://www.japan.basf.com>

上高に好影響を与え、利益は大きく増加しました。

「**石油・ガス部門**」の売上高は大きく改善しましたが、これには生産量と販売量の拡大、ならびに原油とガス価格の上昇が貢献しました。天然ガス取引量は主に天候要因によって拡大しました。昨年 2 月から 10 月までのリビアでの原油生産停止の後、現地では 2012 年第 1 四半期を通じて継続的に原油生産が可能でした。利益は前年同期を大きく上回りました。

「**その他**」に分類される事業の売上高は減少しました。2011 年 10 月 1 日まで STYROLUTION(スタイロリューション) 合併事業に貢献してきたスチレン事業を売却したことが主な要因ですが、この売却と長期インセンティブ制度に伴う高額のコストにより、「その他」に分類される事業の利益は前年同期を下回りました。

欧州では増収増益

欧州地域の売上高は価格高騰と販売量拡大により、前年同期比 12% 増えました。石油・ガス部門の売上高は生産量と販売量の増加、ならびに原油とガス価格の高騰により大きく増加しました。農業関連製品部門は好調なシーズンのスタートを切ることができました。特別項目控除前 EBIT は、主に石油・ガス部門の利益が前年同期を大きく上回ったことにより、3,200 万ユーロ増の 19 億ユーロとなりました。

北米地域の売上高は、米ドル建てでは前年同期比 4% 減、ユーロ建てでは横ばいとなりました。2011 年第 3 四半期に実施したナフサクラッカー製品のサプライチェーン最適化により販売数量は減少しましたが、販売価格上昇と為替変動の好影響により相殺されました。高性能製品部門の売上高は大きく増加したものの、利益は前年同期を 2,300 万ユーロ下回る 3 億 7,000 万ユーロでした。これは化学品部門とプラスチック部門

の利益率が低下し、またルイジアナ州ガイスマーの複数の工場を予定通り停止したことが要因です。

アジア太平洋地域の売上高は、現地通貨建てでは前年同期比 8%減、ユーロ建てでは 3%減となりました。主に化学品部門で販売価格が低下したことに加え、STYROLUTION(スタイロリューション)合併事業に対するスチレン事業の貢献がなくなったことがこの減収の主な原因でした。プラスチック部門の販売量低下も減収の一因となりました。ただし為替変動は好影響を及ぼしました。基礎製品を主とした利益率低下により、利益は 1 億 9,700 万ユーロ減の 2 億 1,900 万ユーロとなりました。

南米、アフリカ、中東地域の売上高は、現地通貨建てとユーロ建てのいずれも前年同期比 4%増となりました。農業関連製品事業は大きな成功を収めました。石油・ガス部門の売上高は販売価格上昇により大きく増加しました。利益は主に機能性化学品部門からの貢献が低下したことにより 1,200 万ユーロ減の 7,900 万ユーロとなりました。

将来の予測に関する記述について

この文書には BASF 経営陣による現時点での経験、推測、および予測、ならびに現在入手可能な情報に基づく「将来の予測に関する記述」が含まれています。これらは将来の業績を保証するものではなく、予測が困難な一定のリスクと不確実性を含んでいるほか、将来のできごとに関する、正確とは限らない仮定に基づいています。BASF の実際の結果、業績、達成事項は、多くの要因によってこれらの記述が明示的または黙示的に示したものと大きく異なる場合があります。この文書に記載された将来の予測に関する記述に関しては、BASF は更新の義務を負いません。

■日本の BASF について

BASF は日本では 1888 年に事業を開始いたしました。国内では、BASF ジャパンと 6 社の関連会社で構成されています。事業活動は、化学品、プラスチック、機能性化学品、高機能製品、農業関連製品の 5 分野です。主要生産拠点は三重県四日市市(熱可塑性ポリウレタン、ポリマーディスパージョン)と、神奈川県茅ヶ崎市(コンクリート混和剤、建設化学品)と横浜市戸塚区(塗料)です。尼崎研究開発センターでは、日本のお客様へのテクニカルサービスと、さらに先端技術産業のテクノロジーリーダーに近いという地理的利点を活かし、エレクトロニクス分野に特化した研究開発を行っています。また 2012 年 1 月には「横浜イノベーションセンター」(エンジニアリングプラスチック)を新設し、日本発のイノベティブで、グローバルな製品の開発を目指しています。2011 年の BASF の日本での売上は 2,004 億円(18 億ユーロ)、従業員数は 1,740 人です。

■BASF について

BASF(ビーエーエスエフ)は世界をリードする化学会社「The Chemical Company」です。製品ラインは、化学品、プラスチック製品、高機能製品、農業関連製品、石油・ガスと多岐にわたっています。BASF は、経済的な成功、社会的責任、そして環境保護を同時に実現しています。また、BASF は科学とイノベーションを通して現代社会や将来のニーズを提示しながら、あらゆる産業のお客様を支援しています。BASF の製品とシステムソリューションは、資源の確保に貢献し、健康的で栄養価の高い食品を提供するとともに、生活の質の向上に寄与しています。BASF はこれらの活動を企業目標として「私たちは持続可能な将来のために、化学でいい関係をつくります」を掲げています。2011 年の売上は約 735 億ユーロで、従業員数は約 11 万 1,000 人です。BASF の詳しい情報は、www.basf.com(英語)、newsroom.basf.com(英語)、www.japan.basf.com(日本語)をご覧ください。

BASF ジャパン株式会社
住所: 〒106-6121
東京都港区六本木 6-10-1
六本木ヒルズ森タワー21 階
TEL: 03-3796-5111
FAX: 03-3796-4111
<http://www.japan.basf.com>